

WebSAM SVF+RDE 導入事例

TANAKAホールディングス株式会社 様

遠隔拠点へ向けた大量印刷をスムーズに実現する、柔軟かつ信頼性の高い帳票システム基盤を構築。

田中貴金属グループの中核企業であるTANAKAホールディングス株式会社様(以下、TANAKAホールディングス様)は、このたびメインフレームによる集中型の基幹システムからオープンシステムへと移行する過程で、販売管理システムにおいても帳票の出力環境を全面的に見直しました。既存のオープンシステムで導入されている帳票ツールではなく、新たに採用したのは、帳票の作成から出力までを一気通貫で実現し、業界では導入実績が豊富な帳票設計・出力ツール「WebSAM SVF」と印刷運用管理ツール「WebSAM Report Director Enterprise」(以下、RDE)です。そして、従来の帳票システムでは実現できなかった課題を解決し、遠隔拠点への大量帳票印刷をスムーズに実現しています。



田中貴金属ビジネスサービス株式会社
シェアードサービス事業部
ITサービス部 チーフマネージャー
市村 淳一 氏



田中貴金属ビジネスサービス株式会社
シェアードサービス事業部
ITサービス部
後藤 麻三子 氏

課題と成果

既存システムでは、遠隔拠点へ帳票出力を行う専用機能がないためネットワークの負荷が高く、また拠点出力時に任意のプリンタを指定できなかった。

遠隔拠点へ帳票データを圧縮し、送信することでネットワークの負荷が低減し、スプール管理や指定したプリンタへ印刷できるリモート出力機能を実現。

帳票の送信側から各拠点の出力状況が確認できず、出力されているかどうかを改めてチェックし、未出力なら再印刷の指示を手作業で行っていた。

帳票の送信側から各拠点の出力状況や履歴を“見える化”するステータス管理機能を導入し、すばやく信頼性の高い印刷環境を整備。

これら既存のオープンシステムでの帳票ツールの課題から、帳票システムを再構築し直す必要性を感じていた。

現状では遠隔拠点へ大量印刷が必要な納品書のみの適用だが、他の帳票へも随時適用を拡げられるよう、柔軟かつスケーラブルな帳票システム基盤を構築。



社 名: TANAKAホールディングス株式会社
所 在 地: 本社: 〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング

創 業 年: 1885年

資 本 金: 5億円(2012年12月現在)

売 上 高: 8,289億5千万円(2008年度実績)

従業員数: 172名(2012年12月現在)

事業内容: 田中貴金属グループの中心となる持ち株会社として、グループ全体の戦略的かつ効率的な運営とグループ各社への経営指導

U R L: <http://www.tanaka.co.jp/>



遠隔地の拠点プリンタにおける帳票の出力状況が見えない

TANAKAホールディングス様では2005年ごろから、メインフレームを中核とするホスト収束型のシステムからオープンな基幹システムへの再構築を検討していました。その中で帳票システムの見直しが大きなテーマの1つでした。既存のオープンシステムで導入されている帳票ツールでは、優れた機能と極端に劣っている機能とが混在し、さまざまな課題が発生していました。「たとえば、遠隔地の拠点へ帳票出力を指示しても、それが実際に拠点プリンタで印刷されたかどうか、送信側で確認できないという課題がありました。拠点から未出力という連絡があれば、改めて再印刷の指示を手動で行っていました」と市村淳一氏は当時を振り返ります。また、既存ツールは遠隔地への帳票出力機能を備えていないため、大量帳票の生データがネットワークを行

き交うことになり、他の業務の処理遅延や作業リードタイムの伸長を引き起こしていました。拠点の出力先プリンタを送信側が指定できないのも、業務の効率化を妨げていました。さらに、一度に送信する帳票が大量であるため、ネットワーク負荷が高まると一部の帳票が欠落するなどの事故も発生していました。そのほかにも、使用するプリンタを変更する際の作業や拠点側に配置されるレイアウト変更作業が煩雑で、改善の課題となっていました。

TANAKAホールディングス様では、これらの課題を解決するため新たな帳票システムの構築に踏み切りました。

圧倒的な導入実績による信頼性の高さからWebSAM SVFに即決

TANAKAホールディングス様では当初から、総合帳票ツールとして導入実績が豊富なWebSAM SVFが選択

肢に挙がっていたといいます。「導入事例が豊富で、さまざまなケーススタディを経験してきたWebSAM SVFなら、多様な課題を解決する技術やノウハウ、あるいは個別の仕組みづくりにおける具体的な方法論を持っているだろうと考えました」。(市村氏)

さっそく2012年3月に帳票出力の必須要件と、業務の流れをまとめたシステム概念図を作成し問い合わせたところ、わずか2日で9パターンの帳票システムの提案が届きました。いずれもWebSAM SVFとRDEとを組み合わせたソリューションでしたが、その中の1パターンがまさに、TANAKAホールディングス様の業務ニーズにぴったり適合するものでした。

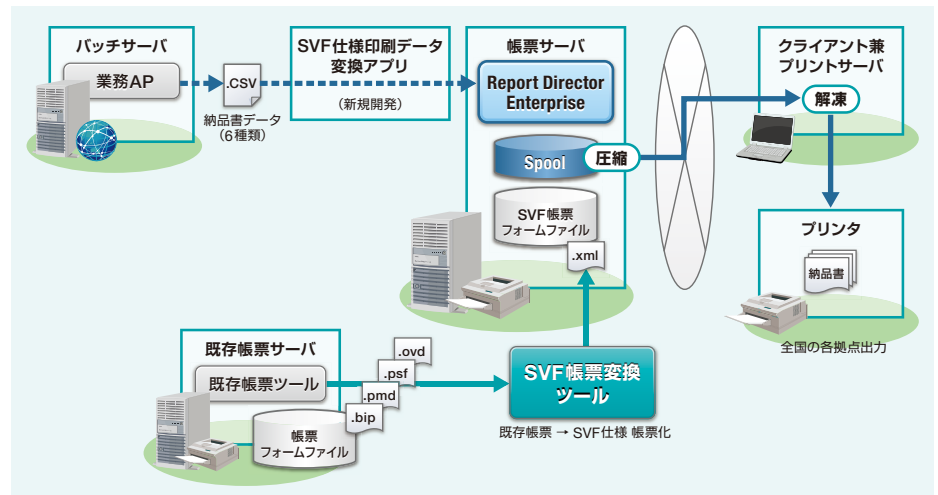
当初は、既存システムのベンダーから提出された改善案と、WebSAM SVF+RDEの新帳票システムとを比較検討するはずでしたが、社内のオープン化へ向けたシステム動向と、課題を解決するための豊富な機能などの点から、必然的にWebSAM SVF+RDEの採用が決まりました。こうして、3月末に新システムの導入が決定し4月には基本設計が終わっているという、迅速かつスムーズなシステム構築がスタートしました。

まず遠隔拠点へ向け 大量印刷が必要な6種類の納品書へ適用

「導入決定後は、ほとんど迷いもなくスムーズに新帳票システムを構築することができました。特にやりにくいとか、困難な点はありませんでした」と市村氏は述べます。約3カ月でシステム構築を完了し、6月に運用テストを開始、2013年1月から本稼働を開始しています。帳票設計は、既存システムの定義体ファイルと設計書、出力見本をNEC側に渡してWebSAM SVF仕様の納品書に再実装が必要でしたが、変換ツールを使用することで工期を大きく短縮することができました。それをTANAKAホールディングス様でセッティングして出力結果を確認するという手順で進められました。

このように、短期導入・稼働が可能だった背景には、田中貴金属グループ各社様の業務現場で帳票出力などのノウハウを培ってきたNECと、SVFの製品知識と技術支援を有するウイングアーク株式会社とによる、密接でスムーズなアライアンス体制の存在も見逃せない点です。販売管理業務には約40種類の帳票がありますが、今回、新帳票システムへ移行したのは、そのうち遠隔拠点へ向けて大量印刷が必要な納品書の6種類(A5サイズ/複数枚綴り)です。各拠点へ出荷した製品の大量納品書を、バッチ処理で自動配信する仕組みを実現しています。

● システム構成図



帳票出力業務の“見える化”と ネットワーク負荷の低減を実現

「既存のホスト収束型システムで実現していた帳票システムを、オープン環境でも遜色なく、しかも短期間でスムーズに実現できたことが、第1の成果として挙げられます」と市村氏は述べます。

加えて、懸案だったいくつかの課題もWebSAM SVF+RDEの新帳票システムで解消されました。

まず、遠隔拠点のプリンタへ帳票を印刷する際、RDEのステータス管理機能を使って実際に出力されたかどうか、あるいは出力の進捗状況を確認できるようになり、業務の正確さや効率性が向上、同時に、出力させる拠点プリンタを送信側が自在に指定できるなど、印刷環境全体の“見える化”と生産性の向上を実現しています。また、複数の遠隔拠点にあるプリンタへ大量の帳票を送信する際、スプール管理機能を通じて帳票データを小さく圧縮して送受信するため、ネットワーク全体のトラフィックを高めることがなく、他の業務処理が妨げられたり遅延することなくなりました。

「業務の現場では、出力する前に印刷イメージをプレビューできるのが好評です。プリンタへ出力する前に、帳票の中身を確認して紙への印刷が必要なものと、電子データで保存しておけばいいものとをフレキシブルに選択できるようになりました」と後藤麻三子氏は述べます。

さらに、帳票システムが刷新され運用がスタートしたことで、業務現場からはいろいろな要望が出始めています。「現場からの要望は、従来できなかったことが新しい帳票システムではできるのではないかと、

WebSAM SVF+RDEへの期待感があるようです」(後藤氏)。

現在は遠隔拠点への納品書6種類のための適用ですが、WebSAM SVF+RDEの導入により、いつでも他の帳票運用へ拡大することができる、柔軟かつスケラブルな帳票システム基盤が整ったことになります。

残りの帳票類も WebSAM SVF+RDEによる 一元管理化を予定

「今後は納品書ばかりでなく、既存システムで処理している残りの帳票類も、WebSAM SVFを利用した新しい帳票システムに順次統一していく予定です。また、遠隔拠点への出力とは別に、ユーザの手元印刷で発生している既存システムのエラーも、WebSAM SVF+RDEで解決できるのではないかと期待しています。それは、サーバからダウンロードした帳票データを、PCで手動印刷したときに起きる出力エラーで、既存システムではエラーの原因を特定できていません。RDEのステータス管理機能を使えば、手元印刷ではなく任意の指定プリンタへ出力できるので、この問題は解消するのではないかと考えています」と市村氏は期待を語ります。

帳票システムは業務全体をつかさどる重要な存在にもかかわらず、アプリケーションサーバやDBシステムなどに比べ軽視されている傾向があります。しかしもし帳票システムがダウンすれば、社内の全業務が即座にストップしてしまいます。TANAKAホールディングス様では、帳票システムの冗長化や可用性の追求も、今後は重要な課題として検討していく予定です。

お問い合わせは、下記へ

NEC プラットフォーム販売本部 (ソフトウェアお問い合わせ)

〒108-8424 東京都港区芝五丁目33番8号 (第一田町ビル)

TEL: 03 (3798) 7177

【受付時間】9:00～12:00 13:00～17:00 月曜日～金曜日 (祝日・NEC所定の休日を除く)

E-mail: contact@soft.jp.nec.com

●本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
●このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承下さい。
●本製品 (ソフトウェアを含む) が、外国為替および外国貿易法の規定により、輸出規制品に該当する場合は、日本国外に持ち出す際に日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。
詳しくは、マニュアルまたは各製品に添付しております注意書きをご参照下さい。